

SPECIAL MESSAGE

神戸百店会だより



第1回パーティーより

リア料理のコースと、桑村一郎氏のカンツォーネを楽しんだ。イタリアの風土と



文化の話や料理にまつわるエピソードなど毎回テーマ

を変えて有意義な話も予定されている。

開催予定

第3回7月21日(火) 18・30・20・30

第4回9月22日(火)

第5回10月20日(火)

第6回11月17日(火)

会費／1回につき3,800円

(税金、お飲物を含みます)

定員／50名様(申込み先着順)

申込方法／官製ハガキに希望日、住所、氏名、電話番号を記入の上、左記宛郵送して下さい。アンナペラでも直接受け付けています。

リストランテ・アンナペラ 担当高

柴千穂神戸市東灘区御影山手1-12

10番(078)822-1777

モロフ(株)販促部C.R.課担当弘

瀬千穂神戸市東灘区御影本町6-11

19番(078)851-1594

★ファッションパークに夏

太陽と海 セブ島展

いよいよ夏の到来、ファッションパークのお店は個性をきそったトロピカルなリゾートファッションを展開している。加えて広場では5月23日～6月12日まで「太陽と海セブ島展」が開かれ、ビデオと写真で南国ムードあふれるセブ島が紹

★ファミリア

ポートピア81で賑やかにファミリアは5月16日(19日まで、連日眠わっているポートピア81の協賛諸行事を行った。



マリアのブラドレス

まず16日午前10時から会場内国際広場で各国の子供たち約200名を招いて「ファミリア・インターナショナル・チルドレンズフェスティバル」を開催。NHK「お母さんといっしょ」の人気者ブンブンやつねきちたちも来演、スヌーピーやファミちゃん、リアちゃんと一緒に歌ったり踊ったり、子供たちも大はしゃぎ。

★「アンナペラ」でレディースパーティー



大はしゃぎの子供たち

御影ガーデンシティ2Fのリストランテ「アンナペラ」では、女性を対象に、「イタリア料理とカンツォーネを楽しむ会」を企画。第1回目が5月19日に開かれ、50名の女性に参加、シェフ特選の本格的なイタ

●ショップビックス

★5月29日、近鉄八尾駅前「西武・八尾」がOPEN。1F「水時計の広場」前に婦人カジュアルショップ「デイズ・スギヤ」、B1食品フロアに風月堂、モロゾフ、ユーハイム、ヒロタ、本高砂屋、ゴンチャロフ、甲南漬本舗、絹の巻の各店が出店しています。



絹の巻

・0111大代表

★神戸風月堂が数々のお菓子の中から選りぬいて詰め合わせました。それぞれの風味がスィートな調子を奏でます。スイートシシフ

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

0・1111大代表

New Face

第2回 神戸・元町アイドルレディー レディースもとまちコンテスト



水谷すみれさん

杉岡 牧さん

三村 直美さん

元町の各種PR行事に花を添える「もとまちアイドルレディー」の最終審査が5月9日、風月堂5Fホールで行われた。元町地区PR委員会(山端一夫会長)が昨年からの始めた企画で、阪神間の25才までの未婚女性を対象に公募し、今回は260名が応募、書類選考の上10名が最終審査に残った。

この日は、商店街や百貨店の代表など10名の審査員を前に、面接、歩き方などで審査を受け、東灘区在住家事手伝い水谷すみれさん(21)、芦屋市在住甲南大生杉岡牧さん(21)、宝塚市在住芦屋大生三村直美さん(20)の3人がアイドルレディーに決まり、ハワイ旅行などの賞品を手にして、「とてもうれしい」と大喜び。なお、この3人は元町の公式行事に一年間活躍する。

新製品コーナー



クリンツイ

ゴンチャロフ特製のフレッシュバターをたっぷり使って焼き上げました。パリッと香ばしく、まろやかな味わいです。四季を通してのご進物に、パーティにティータイムにご愛用下さい。

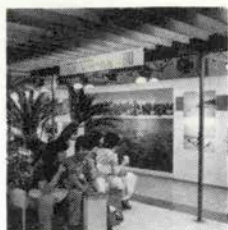
¥500(12枚入)〜¥3,000(72枚入)

★第2回「もとまちアイドルレディー」決定!

介された。UCCハイビスカスドリンク・サービスも人気を呼んでいた。

また、セブ島レディス・スペシャル5日間の旅も企画された。

北野クラブ恒例の「湯井一葉バリ祭」が7月12、13、14日に開かれる。2Fレストランで食事後、1Fナイトクラブでショーとダンスが楽しめる。



夏っぽさを演出

画、今、会員を募集中。

■出発日/7月30日(木) 会員特別価格/98,000円 お申し込み先/ファッションパルクトラベルサロン(078) 392-1735

★Le 14 JUILLET '81

「湯井一葉バリ祭」



湯井一葉さん

★ウネの新店長さん登場 畝 吉信さん 31才



甲南大学経済学部卒業後、安宅産業へ入社、5年勤めた後ウネに入り現在に至る。愛妻家の評判が高くやよい夫人との間には6才を頭に4才、1才となんと3児の父。スキーとジョッキングが趣味で、全国を東奔西走の忙しい毎日だが家族とのコミュニケーションを大切にしている。抱負をひと言「ガンバルゾ!!」東灘区御影在住。畝弥吉社長の御子息。

ポケット ジャーナル

★今年も一流講師を揃えて
神戸夏季大学を開催

夏の恒例となった神戸夏

季大学が今年も神戸市と神
戸新聞社の共催で開かれる

7月3日(金) 手塚治虫入漫画家
「人間は生きのびられるか」

7月7日(火) 草柳大蔵入評論家
「国際社会における日本の特性と課
題」

7月8日(水) 山崎朋子入女性史家
「女性史の窓から」

7月9日(木) 島田一男入聖心女子
大入「コミュニケーション論」

7月10日(金) 結城昌治入作家
「私の小説作法」

この講座も
23回を迎えて
すっかり定着
し、各分野の
一流講師の話
が生で聞ける
とあって楽し
みに待ちうけ
る人も多い。

場所は神戸文
化ホール中ホ
ールで、時間
は毎日午後6
時15分から8

左より結城昌治、島田一男、山崎朋子、草柳大蔵、手塚治虫

7月15分まで。申し込みは市
内プレイガイドへ。(有料)

★写真展「カンボジア――
幼い難民とともに」開く

タイ・カンボジア国境の
難民キャンプで生活する子
供たちの写真展が、4月29
日～5月12日まで青少年会
館5Fロビーで開かれた。

貧しい中にもたくましく生
き抜く子どもたちの写真52
点と絵が展示された。悲惨
な体験を経て、ようやく屈
託のない笑顔を取り戻した
子供たちの純粋な眼が印象
的だった。

これは55年2月、東京の
保母さんらが中心になって
発足した「幼い難民を考え



こんなに屈託のない笑顔が



ミスハワイも参加

★みなと異人館でアロハ
ハワイの夕べ

問い合わせ／〒150東京都渋谷区広尾
4-13-1「幼い難民を考える会」
電話03-4499-1122

る会」(いいぎりゆき代表)
が企画、全国を巡回してい
るもの。現在、全国に約800
人の会員があり、難民キャ
ンプで幼児の保育やカンボ
ジア人の保母さんの養成な
どボランティア活動に携り
昨年12月には念願の保育セ
ンター「希望の家」も完成
同会では「同じアジア人
として子供の救援活動に手
をさしのべて下さい」とカ
ンパと会員加入を呼びかけ
ている。

まだちよつと廣寒い6月
7日の夕方、ポートアイラ
ンドみなとの異人館におい
て「ハワイアンナイト」の
パーティが、神戸日米協会
入会者牛尾吉郎氏、南イン
ターナショナル入南泰吉社長
神戸JICの共催で開かれ
た。潮の香のただよう異人

誕生日
ありがと
う
運動



切手アルバムの販売を!!

みなさんが、誕生日あたりがとう
運動に心をこめてハサミをいれ
て送っていただいた使用済切手は
毎日多くの方から届けられます
この使用済切手は、多くの主婦
ボランティアの手によって、分類
と整理がされています。
そして、黒い台紙にアルバム風
に並べ、ポリ袋にいった美しい切
手帳ができました。
日本の記念切手と外国切手で
す。

日本の記念切手は、昔はなし・
国立公園・魚介というように、各
シリーズ別にセレクトしています。
外国切手は、各国別と五十か国
五十種類というようにセレクトして
います。

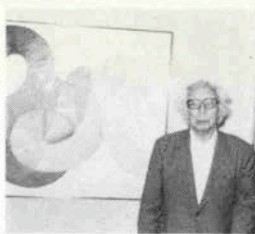
値段は、百円～千円で、市価よ
りうんと格安になっています。
現在、在庫三千パケットで、月
産千パケットです。

今まで幼稚園や教会のバザーや
その他の催物で販売してきました
が、なかなか好評です。特に子ど
もさんが多くもらえる催物は、よ
く売れました。

みなさんの関係されるバザーや
催物などの各種会合の場で、この
切手アルバムを売ってください。
販売していただく場合は、一割
程度の手数料も考えています。
ぜひ、みなさんのご協力を、お
ねがいたします。

問い合わせは、左記まで
誕生日あたりがとう運動本部
651神戸市中央区御幸通ハ一一六
神戸国際会館一階の郵便局の隣
電話二五一八六一 内線三六

十河さんは朝日新聞記者時代から、本格的に絵画制作に取り組み、戦後、抽象画を始め、以来固有の姿勢をくずすことがなかった。



「西陸下アメリカ訪問」の前で

★喜寿を迎えた十河厳さんは「30回記念油絵個展」ひょうご芸術文化センターの代表運営委員などとして幅広く文化運動を進め、第一回兵教組文化賞を受賞された十河厳さんが5月31日、県教育会館1Fロビーで「30回記念油絵個展」を開いた。

館を使ったエキゾチックな雰囲気には、ハワイからのゲスト、ミスハワイとフラダンスチームが南国そのまの熱気と迫力。アメリカ領事夫妻、セレスポリア領事夫妻などが在神外交官も多勢参加して、インターナショナルな神戸らしいパーティだった。港の灯りがまぶしい閉会の時には「アローハ」の挨拶で散会、集まった200人近いハワイファンは真夏気分を満喫していた。

展示作品はこれまでの大作を中心に25点、明快なフォルムと鮮やかな色彩による合理的な構成が特色で、その絵から詩情が漂っている今年、喜寿を迎えたが、「社会現象への感度と、詩情への感受性は、努めて持たなければいけない」とますます壮健な様子だった。

★歌と踊りでつづる女性史
県立神戸一女80周年式典

神戸高校の前身、県立第一神戸高女(県)の創立80周年記念式典が5月10日神戸文化大ホールで盛大に催された。式典の後、田中園子さん(ピアノ)、金昌国さん(フルート)らが記念演奏。作家の小松左京さん企画による「歌と踊りでつづる神戸女性史」では松本尚女さん、今岡頌子さんから卒業生と在校生の協力で「金色夜叉」「蘇州夜曲」など流行歌にのって時代風俗が表現され、約2千人の参加者の喝采を浴びた。

★神戸で初めて
なんでも貸します!
大阪、京都に次いで神戸に5月8日レントオール兵庫店がオープンした。このところレンタル産業は大はやりだが、元々は建設機械などの賃貸が本業だったのを、「一般の人々にも利用を」と総合的なレンタルを始めたもの。



歌は世につれ世は……

△なんでも揃えますノ取扱品目500種類6000点Vが歌い文句で、スポーツ・レジャー用品、家庭電気器具、大工道具、事務用品、美容健康器具など新しく買いととのえるまでもなく、安く利用できる。「手続きもとても簡単です。まず、お電話下さい」とのこと。

■レントオール兵庫店
神戸市兵庫区水本通8-1-16
078-577-13553
AM9:PM7

★パツパコナーが一周年
新谷さんの壁画も完成
トロアードで愛煙家のた

△なんでも揃えますノ取扱品目500種類6000点Vが歌い文句で、スポーツ・レジャー用品、家庭電気器具、大工道具、事務用品、美容健康器具など新しく買いととのえるまでもなく、安く利用できる。「手続きもとても簡単です。まず、お電話下さい」とのこと。

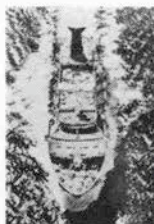


レントオール兵庫店

批判的リアリズムによる生活俳句の実践を提唱し句誌「青雲」を中心に幅広い活動を行なっている著者の第五句集。過去5年間に詠んだ花に関わる句を渉猟したもので、八葉花落葉のあわれVを愛惜する心が人間にも関わっている。紅葉拾ってはかり、女の過去憧憬巻末には赤松薫子の解説・年譜も付けられて親切内容である。(880円・現代俳句協会)

夢見沙羅 (現代俳句の百冊4)
伊丹三樹彦
(2900円・船と港 編集室)
海文堂書店にて販売中。

図書
ガイド
世界の客船
山田建生・池田良穂
船旅ファン、商船ファンを対象にミニコミ誌「船と港」を発行している船キチが、現在世界で活躍中の五千総トン以上の客船を網羅した客船の事典を作った。この種の写真集は数多く刊行されているが、本書は現役客船のほとんどを収録しており運行船会社のリストも紹介されているので、研究家にとっても船旅を計画している人にも便利な内容になっている。元町・海文堂書店にて販売中。



KOBÉ POST

めのくつろぎのスペースとしてお馴染みになった「ばつばコーナー」が5月15日に一周年を迎えた。専売公社神戸営業所が消費者サービスの一つとしてショールームにパイプのキープボックスや休息コーナーを設けたものだが愛煙家の間で大変



新谷さんに感謝状

好評。新谷英夫さんの壁画「瑞雲」も完成して訪れる

花時計



「兵庫」の町を探る

いま、神戸はポートピア81がひらかれ賑わっている。ポートアイランドという人工島は本来港湾用地として造成されたものであった。だから、ポートアイランドがいまあるのは雄大な港湾計画の賜であったといえる。

人の目を楽しませている。5月15、16日の両日には先着200名に粗品が贈られ、一周年が祝われた。

★今年もエライヤッチャノカモ力連で踊りあかそう

阿波おどりの季節が近くと尻のあたりがムズムズするという神戸っ子諸君へ



カモ力連Tシャツ

カモ力連で踊りあかそう
カモ力連
連(発)
起人、
田辺聖
子夫妻
高橋孟
が今
年も真
夏の徳

そして、その計画を拡大したものとして、六甲アイランドが着々と造成されつつある。これで神戸の街が海に広がり、都市の幅ができた。

神戸は港なしでは成立たない街だといえる。

そして、この神戸の港の原点は大輪田の泊であり、兵庫の津なのである。前号から兵庫をテーマにした頁を設けた。

21世紀の未来都市をめざす神戸ではあるが、また、古い歴史も大切にしなければならぬ。

島へご案内。5年目を記念して孟さんの漫画を入れた揃いのTシャツも出来あがり、大いにのりまくっている。出発は8月12日午前11時、参加ご希望の方は申し込みを早目に。

申し込み先 兵庫区小河通3-2-13 高橋孟 電話 671-6865

★北野天神で外人バザール

若者の町北野で7月24日、25日の両日に北野国際祭が開かれる。プリンスコートの三浦明定さんとジェイ・グラックさんの企画で、在神の外人さんたちが集まってバザールをやったり、音楽演奏、盆踊りと楽しい企画が目白おし。場所は北野天神の境内だ。

なぜか、次第に東漸する神戸のなかで、もう一度、歴史をふりかえり、そこから、また、新しい発想を得なければならぬのではないか。

歴史を大切にするといいのは懐古的になるということではない。

奈良朝の頃からの天然の良港であった大輪田の泊の歴史や中世からの兵庫の町を探りながら、新しい兵庫の姿を創造することも、未来都市神戸の大きな課題だと思うのだからどうだろう。 **△Y△**

★待望の「田辺聖子長篇全集」全

18巻が文芸春秋より刊行されました。各巻に単行本2冊分を収録したポリ・ユーモ感のある二本立てで頁数平均400頁／判型四六判／造本表紙布製箱入り／定価平均一八〇〇円。第1回配本は六月下旬で

「しんこ細工の装や難」(朝刊は「んぬき」を併録。第2回配本は7月下旬。港コーベの女性を描いた「ダンスと空想」が予定されている。装画は瀬本唯人氏。

★足立善一氏の「夕暮れに薔を植えて」が、新潮社よりこのほど刊行されました。定価は一〇〇〇円。

姉妹誌月刊「オール関西」に約二年連載されていた作品で、休刊により中断、のちに歌誌「六甲」に続編連載されて隔したという作品であります。装画は津高和一氏。

★金子真珠の御影ガーデンシティ店長の山本誠造さんは五月より新しい福岡店の店長に着任。後任には、田河学さんが就任されました。

★関西スポーツカークラブの、田中松雄会長がこの程辞任され、後任に、山内稔会長が就任されました。副会長／西川純／矢吹圭造／中本正章／人事務局長／小林修治／〒683西宮市甲子園西四丁目二十二番二十三号中田ビル二階。

★女性初の市議員として活躍された中村千鶴子さんが、5月18日に亡くなりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

★中川衣店店ハセンター街Vの取締役社長中川品子さんが亡くなりました。葬儀は東橋染寺で5月13日にと行われました。喪主は孫の中川護さん。心よりご冥福をお祈りいたします。

スパゲティのルーツ

みなさん、スパゲティはもともとどここの食べものと思われますか？

「イタリアに決まってるじゃないの」とほとんどの皆様がお答えになるでしょうね。

ところが……意外や意外、実は中国で生まれたのです。

紀元前200～300年中国人は「ドウ」と言われる粉を棒状にして食べていました。

それがスパゲティの祖先(ルーツ)なのです。

その後蒙古軍の遠征によってヨーロッパにもたらされ、イタリア特産のデュラム小麦を材料として現在のスパゲティに生まれ変わりました。そしてスパゲティといえはイタリア、イタリアといえはスパゲティと言われる位、有名になったのです。

ですから、皆様がスパゲティはイタリアが本場と思われるのも無理はありません。

東京・渋谷 スパゲティ専門店



壁の穴

<三宮店>

中央区三宮町1-5 サンロイヤル神戸10F (さんプラザ)

TEL 078-332-4551

営業時間11AM～9PM 第1・3月曜休

※7月2日京都店オープンいたします。四條河原町高島屋7F。京都におこしのせつは是非お立ち寄り下さい。

□才5回神戸女流文学賞受賞作品(原題「痕跡」)

流れる素描

久保田 匡子

絵/田中一好



最終回

昨夜、次男は何度も台所に下りてきて、お茶を入れたり、お菓子をつまんだりして落着かなかった。

「親父、本気で出て行ったの?」

次男はさり気なく切り出した。

「そうらしいよ」

範子もあっさりと答えた。

「馬鹿な親父だ。放つとけよ、すぐに帰ってくるから…」

と範子をいたわるように言った。父に便乗しておすし

を食べなかった後ろめたさも感じていたらしかった。

「心配することはないのよ。今に始まったことじゃないわ。これまで何回か、お父さんはああやって気晴らしをしたことがあるのよ。本当よ。それで、せいせいした顔で戻ってくるんだから……」

慌しく支度をして出て行きかける次男に範子は話しかけて、本当に厭になっちゃう、と軽口を叩く調子で嘆いてみせた。

「そう?」

疑わしそうに次男は見返した。だが寝不足を表わして

腫れぼったいその臉が、ぼつと明かるむのを彼女は見逃がさなかった。

しばらくの間、範子は氣落ちがしてぼんやりと坐っていた。子供に言ったことは、案外、登の真実を衝いているのではないだろうか。今日までの息の詰まる思いの重苦しい葛藤は、登のこの一片の紙が舞うに似た恣意の行動に手もなく組み込まれて、何ほどのこともないという氣がしてくる。範子はかつてよく似た経験を味わったことがあった、と遠い過去をまさぐっていた。

弘子の家出だった。弘子は実母が死んで一年もたたぬのに、若い継母を迎え入れた父に反抗して家出を試みた。弘子と知り合った新入學の年の夏休みだった。一日で弘子は家に戻った。それまで取りしきってきた家事を継母の手に委ねるのが無念だというのが、家出を中止した理由だと言う。それよりも範子を驚かせたのは、夏休みでちょうどよかったわ、と弘子が何気なく言った言葉だった。登を年端もいかない弘子と並べる滑稽さを範子は覚えなかった。登の家出を單なる外泊と考えた気持が底にあった。深刻な事態とは思いたがらない範子の心が、弘子に抱いた救われたような氣軽な戸惑いを、そっくり現在に移し合せていた。

これ以上傷ついたり、不安に苛まれるのはご免だった。けれども、やはり登は放っておけば、嫌悪や、悲憤を内に増殖させて、自身の力では制御が出来なくなるのではなからうか。

範子は登の会社に電話をかけようとして、今日が土曜日だったのに氣がついた。隔週の土曜は休みなのだが、登は勝手に出勤したりして定まっていなかった。もし誰もいない会社に一人だけ出勤している登に、朝から電話を入れれば、どんな返辭が返ってくるかは手に取るようにわかっている。昼まで待とう、その時に誰も出てこなければそれから考えよう——苦痛は出来るだけ一瞬のばしにしたい心理に似ていた。

通路のコンクリートを、姉が大量の水を流して洗って

いた。その音を聞くともなしに聞いていた範子は、ふと、戦争中の町内で行なわれていた防火訓練を思い出した。

道路の真中に垂れ下げた仮装の席にめがけて、バケツの水を投げかける訓練で、防水桶から水をバケツ一杯に汲みとり、一気に離れた位置の席に叩きつける素早さ、的確さでは姉に適う者はいなかった。姉は真白な足袋を惜し気もなく濡らして、バサツ、バサツと豪快な音を響かせながら、水を殆ど漏らさないで席に命中させていた。すぐさまとって返して次の番を待つ動作も敏捷だった。範子はそんな姉が何となく恥ずかしかった。誰よりもむきになってる姿に思わず目をそむけていた。

その頃と姉は少しも変わっていないかった。毎朝、同じ場所を懸命になって洗い浄めなければ済まぬ姉の姿は……彼女は、アツ、と思った。北山和男と会う約束と、彼の手紙の文面を同時に思い出したのだ。それと、登が弘子に言っていたという「律義で堅物の掃除好き」という自分の人物評を——

姉は自分に、いや自分は姉に酷似しているに違いない……

姉だけにではなく自分の実家そのものへ投げかけられた登の嫌悪や、憎しみの網にすっぽりとからめとられている自身の姿を範子は発見した。

戦争で家族を亡くし、絵画を捨てた登はそれだけに、再生の望みは強く深いものであったことだろう。

範子の家族の中に自分の存在場所を求めた登の希望を封じた姉のやり方ではあった。

けれども常に実家の外側に置かれて疎外の思いに悩んでいた範子の心は、既に実家から遠い所にあった。彼女には登との家庭だけが自分の家庭であり家族であった。それに反して、登には範子の一挙手一投足が、範子の実家との、それから又、姉との関連なしには受けとめられないのだから……

範子は姉に向けられた登の忌避の感情の所在をまさぐり、絶望に打ちのめされた。

昼休みを待たずに、彼女は登の会社のダイヤルを回してみたら応答はなかった。空しいベルの音を断ち切るようにして受話器を置いた彼女は、空を掴むような不安定な感覚の中に揺れていた。

範子は鏡を前に一心に手を動かしていた。北山和男に会うことがさし迫った当面の仕事だった。二十六年前に自分のために盗みをした少年、緊迫した周囲の情勢などどこ吹く風で、大胆なハーモニカ演奏で自分を呼んだ少年に会いに行く準備をしている彼女は、少年に氣を奪われて、頬に火傷を受けた少女の姿を鏡に映し出そうとしていた。範子は自分のものでないような強い動悸を胸に覚えた。

証券会社の社員専用通路に立って、範子は北山和男の出てくるのを待っていた。二人ほどがやっと通れる狭い殺風景な通路だった。肩を触れんばかりに密着して出入している社員に遠慮して、彼女は壁に寄って小さくなっていた。彼はなかなか出てこなかった。どういう人間に変容しているかわからない彼を、面を伏せて待つわけにはいかなかった。出てくる中年の男の一人一人が北山和男に思えて、範子はしだいに疲れを覚えていた。さり気なく自分を観察して通り過ぎる男たちの視線を受けとめてやり過ごしている内に、出てくる時の浮き立った感情は消え去ってしまった。変わりようのない日常の雑務に埋没している中年の主婦の現実感が、男たちの冷徹にさえ感じられる視線に促されて強く意識されてくる。家を出る時電話を入れると、裏門の入口にはいつて待ってほしいと和男は言った。あい変わらず忙しいそうで事務的な口調はそつ気なくさえあった。しかし、範子はむしろ彼が会う約束を覚えてくれていたことに、こみあげる喜びをかみしめていた。けれども今、醒めた気持ちになって待っていると、どうして裏門を指示したのか、客の多い証券会社であるから、表の店内で待っても一向に差し支えないだろうにという不審感を頭をもたげてくる。そ

の時、北山和男が出てきた。せかせかとして落ち着きなく辺りを見回す様子でわかった。でなければ範子は彼だとすぐにはわからなかっただろう。

和男は範子のおよその変貌の予想を大きく外れていた。

「範子さんですね。北山です。お久しぶりです」

両手をだらんと膝に落として挨拶する和男に、範子は言葉を失なって深く頭を下げていた。

彼は靴の踵を引きずり、だらだらとした歩き方で範子の前を行っていた。大柄な体躯が一層投げやりな態度を強く印象づけていた。

「いやあ、驚きましたね。範子さんはすっかり変わってしまったわね。もちろん、あの頃はまだ大人になっていない年頃だったんで当たり前でしょうが。それにしても僕の知っていた範子さんとは違う……」

喫茶店の戸口に近い席にむかい合って坐るなり、和男は大仰に目を丸くしてまじまじと範子を見つめた。それから同じ意味の言葉をもう一度繰り返すと、くるりと後ろを振り返って、

「コーヒーとケーキを二つずつ」

と二本の指を高くかざして注文した。その慌しく散漫な態度に範子の注意は注がれた。

「範子さんに最初に報告しておきますが、僕は現在これだけの資格を持った人間になっています」

和男は背広の内ポケットから名刺入れを取り出し、一枚を抜き取るのと将棋でも差すような手つきでテーブルの上をすべらせて寄こした。範子が手にして眺めると、北山和男と普通の印刷文字が刷った横に、司法書士、不動産鑑定士、経営コンサルタント、とあった。

「お渡ししたのは個人用の名刺でして、僕の私的なつき合いの方に使っています」

せき込むように熱心に言う表情に、一瞬くりくりと活発に目を動かしていた少年の和男の顔が重なったが、どことなく疲れ切った全体の印象の中にすぐにそれはかす

んでしまった。

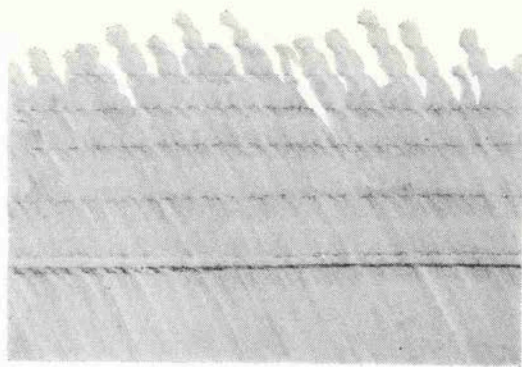
「今、税理士の資格を取るために頑張っています。なかなかむつかしいのですがもうすぐ受かる予定です。その次はいよいよ公認会計士です。これはご存知でしょうが大変な勉強が要求されてますね」

和男は得々とした様子を隠しもしない。

「そうですか。えらいですね」

相槌をうちながら、落着かぬ違和感に範子は自然と目を伏せていた。

「僕は手紙で申し上げました通り、今の会社ではかなり重要な仕事を受け持たされています。ご存じだとは思いますが業界ではトップクラスではありませんが、名は知られている会社です……」



現在の地位を得るためには、どれほど血の滲むような努力を重ねなければならないか。工場であなたと別れて以後、中学を卒業し、夜間大学で学び……

彼はテーブルに体をのり出してまろく立っていた。範子の興味など度外視して、自己の経歴を異様なくらいの熱っぽさで、こと細かに報告している相手を、彼女はふしぎな人物を見る思いで見やう。仕方なく聞き入っている範子の耳に、彼女がまったく気づかり知らぬ男の生活が延々と語り続けられて行く。

「……そこで僕の一生を決定的なものにした恩師にめぐり会いました。△△先生は隠れた法曹界の権威で、僕はその家庭に出入りさせてもらえるほどの督励を受けました。……その先生が亡くなられた後は幸運にもまた別の先生によって……自宅もお蔭様で××丘に××坪もの広さのものを新築しまして……家内とは見合結婚で彼女の実家は……一男一女をもうけ、家内も自立した仕事を持ち……」

この人は何を言おうとしているのだろう、と範子はそのよく動く唇を呆然と見つめていた。

自慢とも弁解ともつかぬ和男の長広舌は、範子の耳をかすめて過ぎるだけのものになっていた。彼女には目の前の疲弊した中年の男の、切迫した息遣いのみがもの悲しく伝わってくるだけだった。

「やあ、」

喫茶店にはいつてきた二人連れに、和男は親しげに手を挙げて合図をした。男たちはチャラッと範子の方へ視線を走らせ、当惑したような微笑を浮かべた。二人ともビジネスマンらしいきびきびとした物腰で、服装も折り目が立って清潔である。彼らは席につくと一度和男の後姿を眺めやり、それから見向きもしなくなった。範子は、和男には見えない位置にいる男たちの顔に、陰微な嘲笑が浮かぶのを認めた。

彼女は男たちの気配にも気づかずじっと黙り続けている和男を痛ましく見守った。油気のない頭髮、老人のように

たるんで皺の目立つ顔の皮膚、血走ってきよときよとと焦点のない目をし、くたびれた背広を着た彼は同僚を誇示してみせることで、かえってそのあやふやな立場を物語っていると思えた。範子は懸命に糊塗しようとしている和男を長くは見ていられなかった。目を落とした時、コーヒーカップを置く彼の手首から薄汚れた下着の袖口がはみ出しているのが見えた。

彼はあまり幸福ではないのだろう……彼としては豪勢な奢りに違いないケーキを喉に押し込めながら、彼女はようやく我に返ってきていた。△わたしはあなたが想像されているような立派な家庭の主婦ではないのです。

夫に逃げられたみじめな女なのです。範子は言って話を打ち切りたかった。彼女は登を思った。このような所で、得体の知れない男と会っている場合ではないのだった。いたたまれなくなった範子は辞去するきっかけを待った。

「本当に……範子さんは僕の描いていた範子さんとは違う……」

ため息をついて和男は蒸し返した。

「どんなわたしだったらよかったのです？」

殆ど一語も発していなかった範子は、他に言葉もみつからぬまま、別れぎわの挨拶のつもりで言った。しかし、そんなことはどうでもよかった。

「それは……昔の範子さんは凛として、もつとすうつとした……白い作業衣を着ていられたせいか、何だか神々しいみたいで……いや、笑わないで下さい。今の範子さんがいけないと言っているのではなくて……どう言ったらよいのかな。あまり派手になられて妖艶で……」

口ごもった和男は、改めて吟味するかのように範子を眺め回した。化粧が濃過ぎると言っているのは彼女にもわかった。それと同時に彼が自分に落胆しているのもわかっていた。

どちらからともなく席を立った。じゃア、と和男は会

釈してくるりと背を向けた。範子は、慚そうに靴を引きずって去って行くその後姿を少しの間見送っていた。

歩き出すとしばらくして笑いがこみ上げてきた。彼が自分の頬の火傷跡に気がついていないということが、奇妙なおかしみを誘っていた。あのうらぶれた貧相な男に軽蔑されるほどに、顔の化粧はすさまじく悪いものであるに相違ない……その時、一緒に外出したのに、横に並ぶのを避けるようにして、よそよそしく先を急いだ登の姿が、範子の脳裏を横切って行った。

範子の足は弘子の店の方角に向かった。いま一度弘子に会って確かめたかった。だが、何を確かめるのか範子にははっきりとわからなかった。もしかしたら、登が弘子の所にいるかも知れないということの確認かも知れなかった。彼女は弘子の部屋に敷かれた真紅の布団に、登が横になっている姿をやさしく夢想した。

手前の辻でタクシーを降りた範子は、「コンゴ」の飾看板を目ざして駆け寄った。扉に白い貼紙がしてある。「転宅のため閉店いたします。ごひいきに預かりましたことを、心より感謝申し上げます」

間違った店に來たのではないかと範子は、「コンゴ」の看板と貼紙を何度も交互に見直した。貼紙には筆でくねくねとした文字が連なり、昔の弘子の筆跡がそのまま姿を現わしていた。範子の疲れた目に、北村和男の昔のままの筆跡が影のように浮かび消えて行った。

彼女は扉の前を離れた。行手には見覚えのない街の夕べのたたずまいが広がっていた。

この街に登がいようとは思われなかった。

弘子も和男も結局はいなかったのだと思った。範子は化粧を払い落とすように、力を込めて頬をこすっていた。確かなのは火傷の跡だけだという風に。

④F ヤマハピアノと楽譜・楽書

格調のCFサロン、ヤマハピアノを全機種展示、パイプオルガンや自動ピアノも。そして楽譜・楽書も4Fに。

世界のヤマハピアノ 全機種を一堂に展示

●世界の検舞台にYAMAHA PIANO
日本で初めてヤマハがピアノを作ったのは1899年。ヤマハの技術者は、世界の検舞台で、数多くのアーティストに触れてきました。さまざまな国のさまざまなコンサートホールでアーティストたちは個性ゆたかに多彩なプログラムを組みました。そして、自分にとって理想のピアノは何かを語ってくれました。彼らの言



限らない芸術の求めに
応えるグランドピアノ
の代表 (フルコンサート
グランドピアノCF)

葉は感性にあふれ、抽象的です。ヤマハはその言葉のひとつひとつを解明し、研究し、そのすべてをピアノの音に反映させる努力を続けています。

●ヤマハピアノを全機種展示

アップライトもグランドも、ヤマハピアノの全機種を展示。ゆったりとしたフロアで見比べ、弾き比べて、あなたにふさわしい一台をお選びいただけます。「お客様相談コーナー」では、ヤマハの経験豊かなスタッ

フが、ピアノの選び方、レッスン方法、防音など、ピアノに関するあらゆるご相談を承えています。

●グランドピアノの代表 CFサロン
ピアノがずらりと並んだフロアの片隅に、ガラス張りの小さな部屋。中にはヤマハフルコンサートグランドピアノCFが。このCFを試弾できる落ち着いた雰囲気の小部屋がCFサロンです。巨匠リヒテルをはじめ、世界のトップピアニストたちが絶賛したCFの豊かな音色を、心ゆくまでお楽しみください。

●パイプオルガンの荘厳な音
驚きのピアノコーダーも
重厚な響きをもつパイプオルガン(カナダ・カサバン社製)も展示しています。ピアノとはまた違う荘厳な音色を確かめてください。またテープでピアノが自動的に演奏されるピアノコーダーも。スコット・ジョプリンのラグタイムピアノやウラディミール・ホロヴィッツの「カルメン変奏曲」を開けば一口欲しくなるかも。

豊かな音楽の世界 楽譜・楽書を充実

●輸入楽譜も充実、豊富な品揃え

クラシック、ポップス、ジャズ……多様に広がる音楽の世界にあわせて、お客様のご要望に十分おこたえできるよう、楽譜と楽書の売場は、一段と選びやすく、買いやす



豊富な品揃えの楽譜・楽書売場

い売場に変身しました。ピアノ曲、スコアなどの輸入楽譜もさらに充実し、世界各地からの楽譜の取り寄せもスピーディな入荷で専門家にも喜ばれています。

KOBE YAMAHA

| | |
|----|-----------------------------------|
| 6F | ヤマハホール 078-391-7652 |
| 5F | エレクトーン 078-391-7655 |
| 4F | ピアノ 楽譜・楽書 078-391-7654 |
| 3F | 管弦打楽器 078-391-7653 |
| 2F | LM楽器 ヤマハスタジオ 078-391-7652 |
| 1F | レコード・プレイガイド オーディオ 078-391-7651 |

連載小説 第一回

秋吉好
絵／岡田嘉夫



一、劫火

少し寒いほどの青黛色の夜空に、清らかに澄みわたった月が高くのぼり、寝殿の影が黒く南庭に落ちていた。灯火がなくても、月光がみなぎりあふれ、池に張り出した松の枝ぶりや中の島のたたずまいが、隅々まで明るい。梅の甘い香りが芬々と庭前に満ちている。定家は南庭の欄干に凭れて皓く輝やく前栽をながめていた。屋形は、みな寝静まって、深閑としている。部をおろした中から、ときどき咳きが聞こえてきた。しばらく会っていない女のもとへ歌を送ったり、夜遅くまで盛んに咲いている梅花を楽しんだ余韻にはちがいがなかったが、寝所に入ってから、自分でもふしぎにおもうほど感情が昂ぶり、灯明の光さえちらついて、いつまでもねられなかった。朝から熱っぽくて咳が出た。病弱のために無理はできないけれど、それにもまして、美しい時間のすぎていくのを一瞬でも惜しむ気持ちがよかった。こうして皎々と照る月に対しては、身をふるわせるほどに遣瀨ない思いが湧きあがってくる。それが何であるのか彼にはわからなかったが、ただ月も梅花も今宵かぎりのものだという思いがある。なるほど自然はくりかえす。しかし、それをみている定家の十九才の春は返らない。

定家は階を下りた。白河の砂を敷き詰めた南庭を横切つて、池のほとりに行く。水面は鏡のように空を映して鎮まっている。彼が月光に蒼然とした夜を愛するのは、それが死の世界に近いからだ。治承元年侍従になった十四才のときから、二度も大病をわずらって、死の淵をさまよった。そのとき、彼がそこに見たものは孤独地獄だった。自分が死んでも世の中は何も変わりはない。そんな影ほどのたしかさもないのが人間だった。

定家は池をめぐる小橋をわたった。月は寝殿の真上にあった。その近くに金色の小さな星がひとつだけ出て

いる。闇にまぎれた片雲がところどころに浮かんでいる。こうして夜空を見上げていると、自分がこの世にいないような錯覚をおぼえる。天地の間に身の置き場所がない。人が寝所に押し込められて眠りをむさぼるように、皓月に照らされ庭を徘徊する人も、また淡い月の影でしかない。

「牢固常住でないのが、この世のならいでしょう。それをいくら嘆いていても、今を生きる意味とはなりませんよ」

定家の耳元で、左馬頭さうまづ行盛の明るい声が聞こえた。彼は武人らしい断固とした態度で、そう言って笑った。行盛のくもりない目差しは、ちょうどこの月のように透明だった。

「私も、いたずらに、なげいているばかりではありません。あなたの剣が、私にとっては、この三十一文字の和歌なのです」

定家はそう応えた。行盛は、そのとき、初めて威丈高な仮面をすてて、燃えるような真剣な顔で、定家を見た。彼はそこに共に流れる熱いものを感じた。

定家が最初に行盛と会ったのは、先の鹿ヶ谷の変で、父右京大夫入道俊成が、詮議を受けたときであった。御子左家は和歌の家筋で政治とは無関係であったが、主謀者の一人大納言成親は、定家の異腹の姉の夫でもあり、それに連坐した弟左少将盛親は、同腹の姉八条院三条の夫であった。定家は入道のそばに控えていた。詮議は形通りのものだった。疑惑のあるわけがない。三位大進清輔がなくなつて、入道が歌合の判を多くつとめるようになる。六条家の敵意は露骨なものになった。弛まぬ研鑽をつんだ入道に勝てないとわかつて、権謀術数を弄することもありえた。定家より少し年長の行盛はそのことをよく理解していた。

「人がどれほど悪く言っても、事実を知りさえすれば、すべてがわかります。われわれにしても、陰で悪様にのしる人が多いが、そんな人は、一度、福原に來られた

らよいのです。火災、強盗、大衆の兵乱が絶えない都にくらべ、福原の京がどれほど立派であることか。法皇は何度も行幸されているから、あなた方も御存知でしょう。入道大相国のおられる雪の御所は、六波羅や西八条にもまして、広大です。大輪田泊には唐船が入港し、宋人が大路を歩いています。われわれにとっては、福原こそ宋にも誇りうる都なのです」

詮議が終って、雑談の中で、行盛は自信を持って断言した。美貌できこえる権亮少将維盛とよく似た優しい顔立ちだったが、話しぶりは荒々しかった。定家はそれに不吉なものを感じた。彼の周囲の人間にはない妖しさがあつた。修理大夫経盛をはじめとして、平氏にも歌を上手に詠む人は多くいたが、彼にはそんな心があるとも思えなかった。

ところが、その後、何かと使いをよこし、歌を送ってくるようになった。そしてその胸底に、深い虚無を抱く人であることがわかった。わずかに才で父をなくし、その後の年月は、相国入道の命令で、一門に立ち向う敵と闘ってきた。それは東国にいる左兵衛佐頼朝をはじめとする源氏だけではない。園城寺や南都の大衆、それに、四百年のあいだ葛のように都に根を張った貴族、さらには、院でさえ例外ではなかった。行盛は敵と闘う中で世の無常を乗り越えていた。それが平氏の公達の覚悟と自信であつた。しかし、それは定家とて変わりはない。彼もまた、六条家と闘って、御子左家を盛り立てなければならぬ。和歌を詠むとは、とりも直さず、無常に立ち向うものであつた。

定家は、夜目にもあざやかに繚乱と咲く梅花にさそわれて、中の島から梅林に向つた。

中門廊の先に形ばかりの釣殿があつて、池はその手前までしかなく、続きに梅林があつた。遠くからながめていると、波の滴か月の光のようにきらめいている。激しい熱情を内にひめて鎮まる女のように、白夜の中でいきづいているのは、ただこの花ばかりであつた。その風情

も、陽光の下よりも、却つて、月光の中がまさっている。

定家は梅花に女の面影をさぐつた。法皇と入道相国の間に軋轢が目立つようになって、他の平氏の女と同様、その人の立場も微妙になつてた。さらに、昨年十一月、入道相国が数千の騎馬をつらねて福原より上洛し、法皇を鳥羽殿に遷されてからは、いっそう辛い思いをされていることだろう。むろん、それは年若い彼には十分になぐさめることの出来ないものであつたが、悪いながらも、やはり、いつとはなしに、足が遠退くようになつた。そしてそれだけに、定家の心の中で女を求める気持がげしく燃えていた。表に出れば、たちまち行盛やその他の公達に知られ、いつかは夫である人にもわかつてしまうような間柄だけに、菌痒くてならなかつたけれど、これではこのまま立ち消えになってしまうことだろう。苦しさがつるばかりだが、自分の姉たちを見ていても、それで仕方がないのかも知れない。二世のちぎりなどと言っても、現実には儚い仮りの関係でしかない。だからこそ、よけいに、女があわれでならなかつた。

定家の狩衣の袖にひとひらの花卉がふりかかつた。風が少し強まって、空に低く薄雲がながれている。彼はそれをつまんで口にふくんだ。異常な心の昂ぶりの原因が、女に会わないことにあるのかも知れないと、定家はふと思つた。

どれくらいのあいだ、梅林を徘徊していたものか、自分でもわからない。亭で休んでいても、いったん浮かんでは、容易に消えなかつた。自分に危険をおかしてでも、女のもとへ通う勇気がないだけに、無気力にさいなまれ、苛立たしくてならなかつた。義兄中務少輔定長が出家した現在、御子左家を継ぐものは、定家をおいて他にはいなかった。それすら棄てよと、いくら心の中で叫んでも、さすがに行動にはならなかつた。

生あつたかい風に白い花卉が舞つた。きな臭い匂いが

した。それが縹渺とした梅の香りを追いやった。屋形の方を見ると、西の渡殿の空が明るかった。月光に照らされた色ではなくて、仄かに檜皮の縁が赤味をおびていた。そう思っただけで周囲をながめると、さらに薄雲が半ばをおおっていた。何かの異変を告げるように、犬がけたたまし

く吠えている。突然の変化だった。家人も起き出した。軒廂の奥に、明りがともっている。たったそれだけのことで、永遠を籠めたような静謐な夜が消えてしまった。定家にはそれが少し残念な気がした。

薄雲はたちまち厚くなってきた。雲間から顔をのぞかしていた月もいつかそれに隠れてしまった。色褪せた弱々しい月明りの中で、竜が空を駆けるように、黒い煙が湧いてきた。それは濃紺の夜闇とはっきり分たれている。火事だった。それもすぐ近くだった。黒い煙は風になびいて、大屋根の上を低くながれ、屋形を覆わんとする勢いだった。そのあちこちで細かい赤光がはぜた。

築地の外を車馬があわただしく通る。人が声高に話している。火勢は北西からこちらに向っていた。黒い煙は頭上高く流れていく。

様子を見に出ていた家人がもどって来たらしい。中門廊から寢殿の南廂をかけて行く。定家の寢所にも告げにきたことだろう。そして、彼がいらないのに気づいて、庭を捜しに来るだろう。夜更けまで外を徘徊する彼の性癖も、このごろでは、物好きなど非難めいたことも言われなくなり、家中のものが誰でも知っている。さすがに母は心配してくれたが、入道は、自分にも若いころ同じようなことがあったのか、最初から別段なにも言わなかった。

須臾の間に、西の空がはつきり



と、不吉な紅色に染まってきた。火事に気がついてから、半刻もたつていなかった。月影は絶えて、あいたいとした霧が、四辺にただよい、黒雲は夜空を覆った。

案の上、内記が中門廊から庭に出てきた。梅林の中に立っている定家をみつめて、そばへ走って来た。

「大火事でございますよ。車の準備ができましたので、おいそぎ下さい。裏の左少将実教様の屋形にも、火が移った由でございます。すぐに、こちらの方も、火がまわってくるのに、ちがいません」

しかし、定家はそれに肯んじなかった。火事だとわかったときに、それを見ていたいという気持を押えることができなかった。

「私は、もう少しここにいますから、先に車を出してくれ。火が飛んでくるといっても、今すぐに燃えるわけでもない」

恒河の沙の数ほどの無量の火の粉が天空をながれるようになった。それが頭上にふりそそいだ。定家のところにも煙がせまってきた。彼はそれでも動かなかった。書庫におさめられた夥しい文書のことを脳裏をかすめる。先祖から伝来したものや、入道が必死のおもいで蒐集されたものなど、彼もわずかに読んだばかりで、多くは未見の貴重なものであった。

寢殿の大屋根の下には、すでに火が入り込んでいる。軒先から、蛇の舌のような、なめらかな紅蓮が出ている。白煙につつまれた屋形のあちこちで火の手があがる。ゆるやかに傾斜した檜皮の表面からも火が燃え出した。

定家が生まれてこの方、火事は日常沙飯のことだった。治承元年の大火では、樋口富小路より火が出て、大内裏をはじめとして、有名な御殿が次々と炎上し、またたく間に、都の三分の一を焼失した。保元二年に建てられた太極殿は、わずか二十年あまりで、故少納言入道信西の野望と共に、灰燼に帰した。地獄の火の車のように、都の空を縦横に、焰が駆けめぐった。日吉山王の使いの猿が、手に手に松明を持って、比叡山から下りてきて、火

を放ったという噂が飛んだ。京洛は、往生要集さながらの、炎熱地獄の巷と化した。阿鼻叫喚の無間奈落だった。定家は、憑かれたように、次々と猛火におそわれていく街をさまよった。逃げまどう人々も、車馬も、人家も、屋形も、ことが赤く炎にそまって、末世の劫火に焼き尽された。彼が病を得たのはそれからほどなくしだった。

寢殿が燃えていた。定家が生まれ育った五条の屋形が、彼の目の前で、音を立てて燃えている。夥しい火の粉が吹きあがる。飛火は梅林にもやって来た。目もあけていられないほどの煙が押し寄せてくる。激しく咳込んで止まらない。定家は、苦しうに胸元をおさえながら、なお炎上する屋形を見ていた。

「燃えるなら、燃えよ」

と、呪咀にも近く、心の中で叫んだ。

屋形も、御子左家も、京師も、何もかも燃えてしまえばよい。それは、四百年の澱りを焼き尽くす恩龍にも等しい。すべての係わりを、自らの手で絶てない自分にとって、火炎は定家の意志ですらあった。いったん滅びの際に立った定家にとって、もはや、何ものも恐れるものはない。自分はこの炎熱地獄から何かを学びとることだろう。それは、妖艶な滅び行くものの断末間の絶叫にも似て、かならずや、人の心を根底からくつがえすものである。それを教えたのは、左馬頭行盛をはじめとする平氏の公達だった。定家は、天をこがす劫火の中に、行盛と、彼の一門のあの女を見た。

「新しいものは、古いものの瓦礫の上にこそ生まれるのです。そして、いったん生まれると、古いものを、徹底的に、駆逐しないでは、止みません」

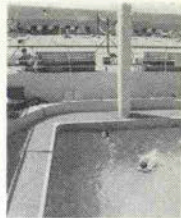
定家がもたれている梅の木も、白い煙をあげて煙り出した。いまにも気を失ってしまいそうなのに、彼の心は炎上する屋形の火を映して激しく燃えていた。

★神戸っ子トラベルコーナー

★夏休みサイパンクルーズと
ボートピア⁸¹・10日間の旅

英国の純クルーズ豪華客船「コ
ーラルプリンセス号」を利用。
日程／7月27日(4人部屋) 大人
¥208,000、小人¥158、
000、Bデッキ(4人部屋)

費用／Aデッキ(小人部屋) 大人
¥208,000、小人¥158、
000、Bデッキ(4人部屋)



コーラルプリンセス号
のデッキ

大人¥195,000、小人¥1
58,000
経費に含まれるもの／クルーズ料
金、三食材料金、モニングティ
ー・アフタヌーンティーの料金、
コーラルプリンセス号が主催する

talk and talk



＜神戸っ子愛読者サロン＞

★神戸で生活をしながら二十
数年になりますが、年に二回は
その生活がなつかしく訪れていま
す。神戸っ子を読んでいると、さ
すがは神戸、神戸ならではの、等
の言葉が多く目に付きまします。
ファッション、美味しいもの、
文化、芸能等になったくその通り

船内行事、催物参加料金、ボート
ピア入場料金。

コース／横浜・サイパン・神戸
お問合せ・お申込みは近畿日本ツ
ーリスト神戸海外旅行営業所
電話39112401

★スイスアルプスとイタリアの旅
12日間
出発日／A7月23日、B8月6日
費用／A、¥398,000
B、¥498,000

大阪・チューリッヒ・ルツェル
ン・ジュネーブ・ベニス・フロ
レンス・ローマ・パリ・大阪
OP／ユングフラウ一日観光、ナ
ポリ・カプリ一日観光、シヤンソ
ンとデイスコの夕べ

★アメリカ家庭体験
カリフォルニア7日間
出発日／8月12日
費用／¥348,000

宿泊／一級ホテル、一般家庭
と思ひ、神戸に迫りかけられるよ
うな感じでむさぼり読む、神戸を
なつかしんで神戸に迫っていくと
する私です。美しい紀南の海辺で
呑気に過ごしては、神戸に迫
り越されてばかり。せめて神戸っ
子で神戸を学んで行きたいと思ひ
ます。神戸っ子のますますの発展
をお祈りいたします。

△紀州最南端／大家サトミ
★緑の風がさわやかでございま
す。新井調氏が東京へご転出の
上でのみしか存じあげませんでし
たが、アルファベットアベニュー
の多才な美存感のファンでした。
★草の傾斜 KOBE ONE SCENE
は、とする新鮮な人生観がありま
す。季節柄、ご自愛くださいませ

★早いもので、バンクーバーに永
住を決め、今の主人(日本人)に
嫁いで海を渡ったのが5年前でし

お問合せ・お申込みは日本旅行三
ノ宮営業所 電話24111881

★トップナツツベシャルツア
1、香港4日間
出発日／9月30日まで毎日
費用／¥69,000より

2、ニューヨークニア8日間
出発日／9月30日まで毎週水曜日
費用／¥228,000
3、米西海岸・ハワイ7日間
出発日／7月1日・19日、9月1
日・30日
費用／¥265,000より

お問合せ・お申込みはトップナツ
ツ(中央区琴緒町5-13-5グリ
ンシャポビル2階)
電話24212695

★大丸特選シンガポールと
セント・サ島5日間
出発便／第一便7月20日・24日
第二便8月22日・26日、第三便8
月24日・28日

た。今回、初めての里帰りであつ
た。西宮の実家に、長男新(2
才)とともに帰ってまいりました。
長男は初めて見る祖国の風景に子
供ながらとても興味を示し、毎日
元気走り回っています。

先日、母校の関西学院大学のキ
ャンパスを訪れました。道行く学
生たちのファッション、学生街の
店々など、私の通っていた頃とは
すっかり変わっており、年月の重み
に一抹のさびしさを感じました。

学生時代同じゼミの友人から送っ
てきた「神戸っ子」をおみやへ、
夏の終りにカナダへ帰ります。

△佐川美津代
★僕は神戸生まれの神戸育ちで、
30プラス歳の自称「アラ・ド
ロン」(誰からもそう呼んでもら
ったことはないが)。
5歳になる娘(親に似ぬ子で美
人という噂)ひろ子と子供の日に

費用／¥149,000
大阪発着、観光付

OP／バードパークとチャイニ
ズ・ガーデン観光(昼食付) ¥8
000円、イライショウによる市
街めぐりと夕食(洋食) ¥12、
000

お問合せ・お申込みは大丸トラバ
ルサロン(大丸神戸店6階)
電話33118121担当／大畑

★夏休み特別企画・香住海水浴
海の家いち号(座席指定)で快適
な列車の旅。
日程／7月24日・26日
費用／神戸市内から大人¥17、
000、小人¥14,000

明石から大人¥16,500、小
人¥13,500、加古川から大
人¥16,200、小人¥13,2
00円

お宿／民宿三浦屋 電話079631
611091
募集人員／50名
お問合せ・お申込みは三ノ宮駅旅
行センター 電話22110190・
4500

ボートピアを親に行きました。
ボートピアランドの大ジェットコ
ースターやら観覧車やら、いろ
ろ乗ったのですが、ジェットコー
スターはすぐこわかった。こわ
かったといえは、5月の日曜日に
登った六甲山のファイールドアスレ
チックもスリルです。ひろ子は喜
んでいたのですが僕は全部通り過
ぎました。次回には頑張りつもりな
のですが……。△池田富士夫

★本フレンド募集コーナー
何でもやってみよう、見て野郎。
男女年令不問、どなたかお便りく
ださい。

〒722 尾道市栗原町西1-6
123 大崎荘内
宮本智恵美(20才)

★編集部では愛読者のみなさまの
お手紙をお待ちしています。お気
軽に何でも書いて送ってください

163